

ダブルディグリー・プログラム利用のすすめ

一度は海外の大学で学んでみたい…そう考えている方も多いのではないのでしょうか。神戸大学大学院国際協力研究科(GSICS)には、修士課程在学中に最短1年間の海外留学をして、GSICSと留学先(協定校)でそれぞれ修士号を取得するという**ダブルディグリー・プログラム**があります。

ダブルディグリー・プログラムには、以下のような利点と注意点があります。

【利点】

● 学生としての限られた時間を有効に利用できる

- 短期留学ではなく長期間、海外で本格的に専門分野を学びたい、語学力を身につけたい、と思っても、日本では多くの場合4月から年度が始まる一方で、海外では9月から学期が始まるのが一般的です。そのため、せっかく留学して帰ってきて、いざ次のキャリアへ進もうとすると翌年の春まで待たなくてはならない、もしくは秋に帰国してみると、春からキャリアを始めるための手続き期間がすでに終了している、ということがあります。ダブルディグリー・プログラムを利用して修士課程の途中で留学することで、時間を有効に使うことができます。

● 履歴書に「空白期間」を作らない

- 留学開始まで、あるいは留学が終わって帰国してから日本での新たなキャリアを始めるまで、空白期間ができてしまう…と心配して留学を躊躇する方もいるようです。就職の際などには、どこにも所属していなかった期間があっても、その間に何をしてどのような成果があったのかをしっかりと伝えることができれば問題ない場合もあるでしょう。しかし、履歴書にどこにも所属していなかった「空白期間」を作らないに越したことはありません。ダブルディグリー・プログラムを利用した場合、日本の修士課程に在学している最中に留学することになるため、留学開始直前まで、また留学終了直後から、学生としてGSICSに所属することができます。

● 修士号を持たなくても入学できる

- イギリスの一部の大学の修士課程では、イギリスと日本の教育制度が異なることを理由に、日本での修士課程を修了してからでないと入学を許可しないところもあります。ダブルディグリー・プログラムを利用することで、修士課程の途中でも海外大学の修士課程で学ぶことができます。

【注意点】

● 出願のタイミングと留学準備

➤ 2年間で2つの学位を取る(キャンパスアジア・プラスプログラムを参照)

海外大学の修士課程で学ぶ場合には、実際に留学する1年ほど前から出願手続きなどを進める必要があります。また、英語など語学試験で留学先から要求されるスコアを取るためにも、計画的な準備が必要です。

そのため、たとえば **GSICS** での修士課程1年の秋から海外の大学へ留学したいと考えている場合には、**GSICS** への出願準備と合わせて、**GSICS 入学前からの留学準備**が必要です。

GSICS 入学前に留学生募集などの情報を知りたい場合には、**ダブルディグリー・プログラムのウェブサイト**を活用してください。メールでの問い合わせにも対応しています。

➤ 3年間で2つの学位を取る

これまでダブルディグリー・プログラムを利用して留学している学生の多くが、GSICS 入学後に留学を決意して、修士課程1年次に準備を始めています。その場合には、多くの場合修士課程2年次の秋からの留学になり、合計で3年かけて修了することになります。また、一部の協定校では日本の修士課程で1年学んでから留学してくることを条件にしている大学もあります。

● 留学に興味がある…と思ったら、今、まず語学試験の受験を

➤ せっかく海外で勉強したいことが見つかったとしても、多くの人が語学力の不足を理由に最終的に諦めてしまっています。語学試験のスコアを上げるためには、早くから準備を進めて何度か受験することが必要です。早めに一度、語学試験を受けてみることをお勧めします。

協定校やその他の情報については、ウェブサイトをご覧ください。

当推進室では、「留学なんでも相談」を随時実施しています。留学の準備方法、留学先について、留学後の進路など、気になることがあれば何でもお気軽にご相談ください。

神戸大学大学院国際協力研究科

ダブルディグリー・プログラム ウェブサイト:

<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/gsics-doubleddegree/>

問い合わせ先(国際化推進室担当 中原):

masato74@people.kobe-u.ac.jp

